

職政発 0620 第 1 号
令和 6 年 6 月 20 日

文部科学省高等教育局学生支援課長 殿
文部科学省初等中等教育局児童生徒課長 殿
文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室長 殿

厚生労働省職業安定局雇用政策課長
(公 印 省 略)

職業情報提供サイト (job tag) 等の周知へのご協力について

人口減少による労働供給制約の下で個人の働き方へのニーズが多様化する中、選択肢を把握しながら生涯を通じて自ら生き方・働き方を選択できるよう、厚生労働省においては、求職者等に対して、職業情報や企業等の情報を提供する情報インフラの整備・普及を進めているところです。

こうした情報インフラ等については、在学中におけるキャリア教育や進路指導等の推進にも効果が期待でき、各都道府県労働局等において周知を行うこととしていますが、下記につきまして、都道府県教育委員会等を通じて、学校等や学生等への周知をお願いいたします。

記

(1) 職業情報提供サイト (job tag) について

職業情報提供サイト (job tag。以下「job tag」という。) については、500 を超える個々の職業に関する情報を動画を含めて掲載するとともに、学生等の興味・関心等に応じて関連する職業を探索できるよう、多様な検索方法を提供しており、学生等の職業理解の促進等を支援するサイトです。

令和 5 年度においては、教育現場における本サイトの効果的な活用につ

いて実証検証を行い、キャリア教育や進路指導、就職支援における活用に当たり参考となるよう、教職員の方向けのパンフレットを作成しました（別添1）。

また、本サイトの機能や使い方を簡単に説明するため、数分程度の「使い方動画」を作成しました。

(URL) <https://shigoto.mhlw.go.jp/User/TutorialVideos>

これらを参考に、学校等における job tag の活用をご検討くださいますようお願いいたします。

(2) 「求職者等への職場情報提供に当たっての手引」の周知等について

企業等の採用活動における、求職者等への職場に関する情報の提供について企業等が参考にするための「求職者等への職場情報提供に当たっての手引」を、本年3月29日に策定しました。

(URL) https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000073981_00013.html

本手引については、企業等向けの参考資料ですが、学生等・求職者の方が、応募・就職を希望する企業等を十分に理解した上で職場を選択できるよう、手引の内容を踏まえて学生・求職者等の皆様にリーフレットを作成しました（別添2）。

以上

キャリア支援の「信頼できる参考書」

「job tag」活用のすすめ

高等学校・専修学校・大学等でのjob tag活用に向けて



job tagについて



job tag(「職業情報提供サイト(日本版O-NET)」)は、文献調査や企業・関係団体への訪問ヒアリング等により、**現場の仕事の実態を収集した上で、約500の職業**について「**ジョブ**」(職業、仕事)、「**タスク**」(仕事の内容を細かく分解したもの・作業)、「**スキル**」(仕事をするのに必要な技術・技能)等の観点から職業情報を「見える化」したWebサイトです。

job tag WebサイトURL:<https://shigoto.mhlw.go.jp/User>

- **職業適性をチェック**できます。無料の適性検査を受けることもできます。
- **どのような職業があるのか**、いろいろな切り口で検索できます。
- その職業では、一般的に**どのような仕事内容や作業があり、どのようなスキルや知識を持った人が働いているのか**を調べることができます。
- 仕事の概要(動画付き)、入職までの経路、労働条件等を掲載しているの**で、職業について幅広く、具体的に理解**することができます。

自分に向いている職業を検討できます！

色々な切り口で職業を調べることができます！



「job tag」Webサイトイメージ

本資料について

本資料は高等学校・専修学校・大学等で**キャリア教育、職業教育、就職活動支援等**を行う**教職員**の方に向けて、**job tagの機能や効果、活用事例等**を紹介しています。

job tagを活用することで、**地域に現在存在している職業に限定されず**、キャリアについての**個別最適化された学びと一斉指導の両立**を実現できます(p.3キャリア教育、教科学習の事例参照)。

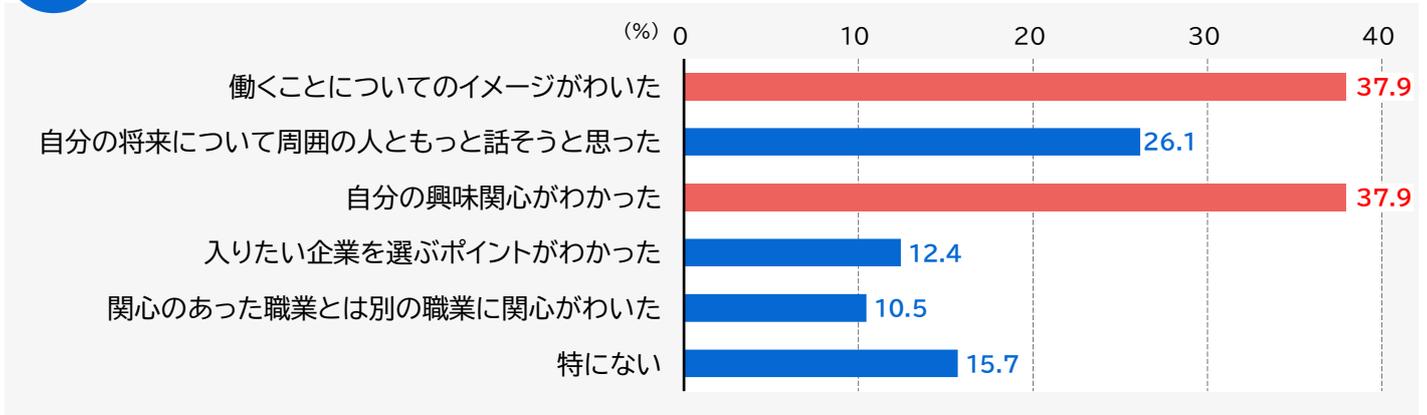
どんな効果があるの？

高等学校・専修学校・大学等でjob tag活用の実証[※]を行ったところ、「働くことについてのイメージがわからない」「自分の興味関心がわからない」などの課題に有効であることがわかりました。

生徒
の声

実証からのアンケート結果

job tagの利用前と比べて、どのような変化がありましたか。【N=153】(※「その他」回答は除く)



先生
の声

- 職業に関して具体的な情報を知ることができ、**就職活動の面接対策ができた。**
- job tagで気軽に適職検査を受検することができるため、**事前準備の負担が軽減された。**



例えば、こんな使い方ができます！

job tagには動画や統計データがいっぱい！
授業や進路指導に便利です。



働くことのイメージがわからない…

表示順序	実施率	タスク内容
85.6%		薬品の相互作用・副作用・服用量、取り扱いや保管などについて、患者からの質問に答える。
79.1%		処方箋に基づいて薬品の計量・計測・混合をする。
76.5%		処方箋の内容確認を行い、疑問があれば医師に問い合わせを行う。
75.1%		患者への投薬状況を記録し、相互作用などのチェックをする。
62.7%		規定に従って薬品の安全管理と品質保持、廃棄を行う。
62.3%		処方箋に基づいて薬品の包装やラベルの貼付をする。
58.2%		医師や看護師に対して薬品の用途や特徴、副作用・治療効果に関する情報を提供する。
37.3%		医薬品の安全性情報、適正使用情報を収集、評価、分析し、安全性を確認する。
21.5%		薬事関係の許可手続きや監視指導をする。
15%		治療薬および診断検査薬の開発や実験、製造工程の管理をする。

自分に向いている
職業を検討できます！

どんな仕事？

薬学の専門家として、病院や薬局などで薬の調合や薬事管理、監理などを行う最も代表的な仕事は「調剤」であり、医師が出した処方箋を確認して正確に薬を調合する。また、処方された薬の副作用や、併用薬との相互作用などについて、患者の体質やアレルギー歴などと照らし合わせ、問題なく服用できるかを確認する。個々の患者に合わせて、薬の効果や服用方法をわかりやすく説明する「薬学指導」も重要な仕事である。

病院では、医薬品の在庫管理・記録を行うほか、病院と密接に連携し、患者の病状変化を評価して薬の量の変更を医師に提案したり、薬剤師外来で副作用管理のための薬学指導なども行う。

病院や薬局以外では、製薬会社の社員として新しい薬の開発や実験を担当したり、薬の製造工程を管理したり、製薬会社に自社製品の宣伝情報などを提供する

動画により仕事の具体的なイメージを持つことができます！

自分の興味関心がわからない…

価値観検査

あなたの「働くことへの価値観」を診断することができます。これはテストではありませんので正確も不正確もありません。時間をかけて、現実とできるかどうかはよく、今のあなたに合った価値観を事前に回答してください。

仕事価値観に関する診断テスト

仕事をすすめるうえで、次のような事柄はあなたにとってどの程度重要ですか？当てはまるものを1つ選んでください。

互に調剤と認められる仕事をやり取りすること

とても重要 重要 やや重要 重要ではない

サイト上のテストに回答すると、
自分の価値観を知ることができます！

価値観検査

あなたの特徴

自分の仕事や能力を正しく評価され周囲から認められていると実感することに喜びを感じます。より重要な仕事やポストを任せられるなど、社会的に責任や地位が認められる仕事にやりがいを感じます。

内容	スコア
努力した結果が達成感に結びつくことにやりがいを感じる。	42
自ら意思決定し、自主的に業務を遂行できることにやりがいを感じる。	37
人から認められたり、社会的な地位が高いことにやりがいを感じる。	52
仕事で関わる人々と良好な人間関係を築けることにやりがいを感じる。	49
雇用や報酬が安定していることにやりがいを感じる。	34

※本資料は令和5年度『職業情報提供サイト(日本版O-NET)』活用促進事業[※]での実証をもとに作成されました。

具体的にはどう使えばよいの？

キャリア教育の授業やインターンシップでjob tagを活用！

使う機能 自己診断ツール、職業検索

活用シーン #キャリア教育の授業 #自分を知る #資格を知る #高校1・2年生 #大学初年次教育

大学



活用例

- 「職業興味検査」「価値観検査」「職業適性テスト(Gテスト)」を実施し、自身の興味関心や可能性について理解を深める。
- 気になる職業を検索し、仕事内容や労働条件、求められる資格や勉強等を確認する。

工夫・ポイント

- job tagの使い方について、学校外の外部人材に説明を依頼する。
- 検査結果や職業の情報を、進路検討や就職活動に活かすよう促す。

高等学校



活用例

- 「職業興味検査」や「価値観検査」を行い、自身の興味関心について理解を深める。
- 上記検査結果を基に適職をリストアップする。
- 自分の「適性」という観点から仕事を選ぶという考え方を涵養する。

工夫・ポイント

- ワークシートに検査の結果を記録させ、授業後も参照できるように工夫する。
- 就職しない生徒でも、進学先を考えると検査結果を参考に促す。
- job tagの検査はあくまでも適性判断の手段のひとつであり、検査結果の受け止めに教員がサポートする。

高等学校



活用例

- インターンシップの前に事前学習で「職業検索」を実施する。
- 掲載動画やタスク分解、統計的な各種の情報から当該職業についての具体的なイメージを持たせ、インターンシップに備える。

工夫・ポイント

- job tagには職業関連の統計情報が集約されているため、受入れ先の企業の職業を客観的に把握する際に参考となる。
- job tagで事前に職業イメージを具体化することができるため、より具体的な質問をするなどにより理解が深まり、インターンシップを充実させることが可能となる。

教科学習と組み合わせることも可能！

使う機能 業種・職種理解

活用シーン #国語の授業 #進路の検討 #高校3年生

高等学校



活用例

- 国語の授業で、自分の将来についてクラス発表を行う際に、job tagを活用する。
- 将来就きたい職業をjob tagで調べ、求められる能力や資格から、今後どのような勉強や進路が必要か考えさせる。

工夫・ポイント

- 生徒によって進路の決定度合いが多様なため、その度合いに応じて利用しやすいjob tagの機能を整理し、授業の冒頭で紹介する。

※job tagの使い方を知りたいときは、サイト上に各機能別に使い方を説明する動画を掲載していますので、ご活用ください。学校の所在地を管轄するハローワーク等にお問い合わせいただくことも可能です。

進路選択時や個別面談時のツールとして活用！

使う機能 自己診断ツール、職業検索

活用シーン #就職活動指導 #進路変更 #文理選択 #三者面談 #短期大学2年生 #専修学校1年生 #高校生

短期大学



活用例

- 個別面談でjob tagの「自己診断ツール」を活用し、進路変更を検討している学生に、新しく候補となりうる職業について情報提供する。
- 職業の詳細ページを通じて、仕事内容、必要な資格、求人の有無等を確認し、進路の検討を支援する。

工夫・ポイント

- 進路に悩む学生に対して、新しい職業の選択肢を提示することで、就職活動に前向きに取り組めるよう支援する。

専修学校



活用例

- 就職活動指導前などに、今勉強している専門分野ではどのような職業があるのかを、「職業検索」を使って学生に探索させる。
- 探索した結果を進路指導の場で参照し、進路や学修方針を教員と一緒に考える。

工夫・ポイント

- 自分が興味を持っている業界ではどのような仕事があり、それがどのような仕事なのかを理解するため、動画や仕事のタスクの説明を活用する。

高等学校



活用例

- 父母等も交えた三者面談の場で、「職業興味検査」や「価値観検査」の結果を活用する。
- その結果を父母等とともに参照しながら、生徒の適性に合った進路を具体的に検討する。

工夫・ポイント

- job tagの検査は客観的な指標のため、生徒や父母等が客観的に生徒の将来を考えることができる。
- job tagの活用で、教員や父母等が知らない職業も選択肢として提示が可能である。

高等学校



活用例

- 文理選択の前に「職業検索」を実施する。
- 仕事に求められる資格や能力を知り、自分が必要とする勉強や進学先を検討する。文系・理系の進路選択を実施する際に参考とする。

工夫・ポイント

- job tagには資格や求められる能力についての情報が掲載されているので、勉強と仕事を結びつけて考えやすい。
- 文理選択を、自分の現在の得意科目や成績からのみ考えるのではなく、将来を見据えて選択することが可能となる。

【留意事項】

- このパンフレットは、job tagを活用したキャリア支援の方法を考える上での参考資料です。実際に支援を行う際には、各学校の教育理念や指導方針、生徒・学生の状況等に応じた工夫を行ってください。
- 「職業興味検査」や「価値観検査」等の自己診断結果のみをもって進路指導を行うことのないようご注意ください。
- 実際の学校におけるjob tag活用の取組みを参考にして作成していますが、実際とは異なる取組みを含んでいます。

本パンフレットは厚生労働省委託事業として株式会社三菱総合研究所が実施した、令和5年度『「職業情報提供サイト(日本版O-NET)」活用促進事業』の成果物です。

本パンフレットに関するお問い合わせは下記お問い合わせ窓口からご連絡ください。

【お問い合わせ先】 お問い合わせメール(support@shigoto-o-net.jp)

自分に合った就職先の検討に職場情報を確認しましょう

～職場情報の提供に関する企業向けの「手引」を参考に～

企業等が採用活動において職場に関する情報の提供を行う際、参考にするための「**求職者等への職場情報提供に当たっての手引**」を策定しました。

この手引をもとに、皆さまが企業研究や職場選択を行うために情報を収集する際のポイントをリーフレットにまとめましたので、参考としてご活用ください。

1. そもそも法令で開示・提供することになっている情報は？

現在の法令では、次の情報を企業等が開示することとされています。募集広告やインターネットにより確認しましょう。

労働条件 (職業安定法)

※労働者の募集を行う事業主等が対象です。

- ・業務内容 ・労働契約の期間
- ・就業場所、就業場所の変更の範囲
- ・始業・終業時刻等
- ・所定外労働時間の有無
- ・賃金 ・社会保険等の適用 など

求人・募集広告などに掲載

職場の就労実態に関する情報 (若者雇用促進法)

※新規卒者等の募集を行う事業主等が対象です。

- ・募集・採用に関する状況
(直近3事業年度の新卒採用者数・離職者数等)
- ・職業能力の開発・向上に関する取組の実施状況
(研修の有無及び内容等)
- ・職場への定着の促進に関する取組の実施状況
(前事業年度の月平均所定外労働時間の実績等)



求人・募集広告、若者雇用促進総合サイトなどに掲載

育児休業等に関する情報

(育児・介護休業法・次世代育成支援対策推進法)

- ・男性の育児休業の取得率
※常時雇用する労働者が1,000人を超える事業主が対象です。
- ・仕事と子育ての両立に関する行動計画 など
※常時雇用する労働者が100人を超える事業主が対象です。



女性の活躍状況に関する情報

(女性活躍推進法)

※常時雇用する労働者が100人を超える事業主が対象です。
(開示項目は企業規模等により異なります。)

- ・男女の賃金の差異
- ・女性の活躍に向けた取組の実績(※)や行動計画(※)
女性採用者の割合、男女別の育児休業取得率、
1月あたりの平均残業時間 など



企業等のサイト、「両立支援のひろば」「女性の活躍推進企業データベース」などに掲載

この他、労働者の採用者数に占める中途採用者数の割合(正規雇用労働者)も、インターネット等で公表することとされています(労働施策総合推進法)。
※常時雇用する労働者が300人を超える事業主が対象です。



2. 職場選択のために収集する情報にはどんなものがありますか？

求職者等が職場選択に当たって求める情報は様々ですが、厚生労働省が実施したヒアリング調査などでは、法令で定められた開示項目以外に、次のような情報を求めているという結果が得られました。これらを参考にご自身の興味・関心などに応じて、必要な情報を収集してください。

■ 企業等・業務に関する情報

- 企業等の安定性 ○事業内容 ○業務により取得できるスキル ○入社後のキャリアパス

■ 職場環境に関する情報

- 在宅勤務、テレワークの可否 ○育児休業や短時間勤務等に関する制度
- 職場の雰囲気や社風 ○社員の定着率

■ 労働条件・勤務条件

- 賃金(昇給等の中長期的な見通しなど) ○有給休暇取得率 ○副業、兼業の可否

3. いつ、どのように情報を得ることができるでしょうか？

企業等は、

※法令に定めのある情報は、その法令の定める方法で開示することとされています。

- ・ウェブサイトや求人票、募集広告への掲載
- ・企業説明会や選考前の面談、選考に係る面接
- ・職業紹介事業者経由



などの機会を通じて自社のアピールを行っています。

また、所属予定部署の社員との意見交換を設けたり、職場見学を実施している企業等もあります。求職者等の皆さんは、これらのタイミングで情報収集することができ、質問などをする機会もあります。

また、ハローワークや職業紹介事業者を利用している場合は、これらの機関を通じて質問することも可能です。



情報提供は、**求職者・学生の皆さまの職場選択と、企業等の相互理解のため**になされるものです。**丁寧なコミュニケーションを心がけるとともに、提供された情報を転用する（SNSへの投稿など）ことのないよう、適切に取り扱ってください。**

4. 情報を確認するときのポイントはありますか？

- 数値情報を確認するときは、**用いられている数値の定義（どのような数値か）**や**算出方法も確認**してみましよう。例えば、離職率など、企業等が任意で開示・提供している情報の場合、算出に当たって用いられる分母が企業ごとに異なることもあります（新規採用者数や全従業員数など）。用いる分母次第で、離職率として算出される数値に違いがありますので企業間での比較を行う際などには注意が必要です。
- 収集した情報が必ずしも最新のものではない場合もありますので、**得られた情報の更新時点**を確認しましょう。
- 企業等は職場環境を改善するための取組を日々行っています。離職率その他の企業等における取組の実績を確認するときは、**経年変化、今後の方針などを併せて確認**することで、企業等における取組への姿勢や状況を理解することができます。

※ 上場企業等は、投資家向けに「人的資本に関する情報」を開示しています

上場企業等は、**人的資本・多様性に関する情報の開示**に向けた取組を進めています。これらの開示項目には、「離職率」や「人材開発」、「エンゲージメント」など、企業等の選択に当たって参考になる情報があります。企業全体の現状や今後の方針など参考にすることができます。

企業情報が一覧で確認できる職場情報総合サイト「しよくばらぼ」をご活用ください！

「しよくばらぼ」は、「若者雇用促進総合サイト」、「女性の活躍推進企業データベース」、「両立支援のひろば」に掲載されている**企業等の情報を総合的・横断的に提供し企業間の比較ができるウェブサイト**です。

※現在、上記の3サイトに掲載されている企業の情報を転載していますが、**令和6年度中に幅広い企業等の情報を掲載できるよう改修を行う予定**です。

<検索結果のイメージ>



■ 職場情報総合サイト（しよくばらぼ）

<https://shokuba.mhlw.go.jp/>

